

東京大学が、「キャンパス・マネジメント研究センター (CMRC)」を新設。 センターに「社会連携講座」を設置し、FMに本格的に取り組む!

東京大学は、世界最高峰のキャンパス・マネジメント、キャンパス・デザインを目指した「キャンパス・マネジメント研究センター (CMRC)」を4月に新設した。

東京大学では、研究面のビジョンに、「新たな価値創造に挑む学術の戦略的展開」があり、アクションとして「国際的に卓越した研究拠点の拡充・創設」がある。さらに運営面のビジョンとして、「複合的な『場』の充実と活性化」があり、アクションとして「世界最高の教育研究を支える環境の整備」がある。今回の「キャンパス・マネジメント研究センター (CMRC)」の新設はそれらを実現化するための第一歩といえる。

CMRC は、今までの建築の設計と建設というプロセス重視から、企画から運用面を含むライフサイクルを通じたマネジメント視点から新しい学問体系をつくるという、まさにFMの体系化である。空間価値向上と新サステナブル社会の実現を目指し、大きく舵を切ったといえる。

理論だけでなく、本郷キャンパスと周辺地域をモデルにFMを展開、実建物を対象としたキャンパス・マネジメントと空間資源の研究・教育の実践的活動拠点にするという。

2022年4月からは、「社会連携講座」を設置し、協力企業を募集し、若手人材教育・育成、業界・異業種連携、イノベーション源泉の場にする。

期間は、2022 (令和4) 年度～2026 (令和8) 年度の5年間で予定しているが、延長の可能性もあるという。

教授陣は、東京大学大学院工学系研究科の加藤耕一教授、野口貴文教授、千葉学教授、藤田香織教授、赤司泰義教授、佐久間哲哉教授、ほかのそうそうたるメンバー構成である。

協力企業は、講座の運営・共同研究の実施に必要な経費を負担し、共同研究者の派遣ができる。協力企業負担額は、総額5,000万円/年以上を予定し、数社で分担する。

これら研究センターの新設や「社会連携講座」の設置は、大学におけるFM教育・研究の起爆剤となることが期待され、JFMAでは、3月の理事会にて報告、別途説明会を開催する予定である。

お問い合わせ先：
JFMA 専務理事 成田 一郎
企画部長 直江 明彦



研究テーマと対象